令和２年度　年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校　第３学年　「国語（光村図書）」

７４時間（７０％）

週	重点に置く指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点
1	Ｃア	１　深まる学びへ	春に	1	・表現の特徴を中心に指導する
	Ｃイウ		握手	3	・登場人物の置かれた状況や言動に着目して、人物像を捉えることを中心に指導する
2	Ｃエ 伝ア（ア）		学びて時にこれを習ふ「論語」から	2	・漢文特有の言い回しをおさえ、注釈からとらえた孔子の考え方を、自分の生活と関連付けて考えさせることを中心に指導する
			練習　評価しながら聞く	3	→次の小単元の導入に使用する
3	Ａイウ		社会との関わりを伝えよう 相手や目的に応じたスピーチをする		・題材設定や取材はテーマを絞って提示したり、共通の材料を用意したりするようにする ・相手を意識した資料の作り方を指導する （状況によって時期を入れ替える）
	伝ウ（アイ）		漢字1　熟語の読み方（※１）	0.5	・要点をワークシート等で押さえ、練習問題は家庭の課題として、後日確認する（※２と同一時間）
4	Ｃイウ	２　視野を広げて	月の起源を探る	3	・説明の順序や図の使い方をとらえ、内容を捉えることを中心に指導する
			練習　文章の形態を選んで書く	4	→次の小単元の導入に使用する
5	Ｂアイ		魅力的な紙面を作ろう 修学旅行記を編集する		・課題は身近な生活に関することとし、紙面構成を考えることを中心に指導する（学校行事等で入れ替えることもある）
			「想いのリレー」に加わろう	1	・情報発信の意義と注意点を指導する
	伝イ（イ）		言葉1　和語・漢語・外来語（※２）	0.5	→（※１）とあわせて指導する
6	Ｂア Ｃアウ 伝イ（ア） Ｃエ	３　言葉を見つめる	俳句の可能性 ［書く］俳句を創作しよう 俳句を味わう	3	・「俳句の可能性」を基に、俳句の創作と簡単な解説を書くことを単元のゴールの姿とする ・「俳句を味わう」の俳句は、ワークや資料集等を利用して表現の特徴をおさえ、創作の参考とさせる
			言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目ざして 「批評」の言葉をためる	3	・二つの教材を比較させ、言葉について自分の考えを持たせることを中心に指導する ・前者は、文化庁の調査結果に着目させ、時間の経過による言葉の変化について考えさせることとする
			文法への扉1　すいかは幾つ必要？ →文法①　文法を生かす（P218-220）	家庭	・２年生の既習事項であるので、教科書巻末の練習問題を家庭での課題として、後日確認する
7	Ｃオ	読書生活を豊かに	高瀬舟	2	・近代文学に触れるとともに、「生きる」ことについての考えを深めさせる（学校図書館を利用）
	Ｃオ		未来の私にお薦めの本 読書案内　本の世界を広げよう 読書コラム　ためになるってどんなこと？	1	・教科書に掲載されている例を参考に、生徒の実態にあった読書生活を振り返るようなワークシートを用意し、家庭での課題として取り組ませ、後日確認する
	書写	文字を効果的に使う		1	・手書き文字と活字文字の特徴をおさえる
8	Ｃアエ	４　状況の中で	挨拶――原爆の写真によせて	2	・比喩や象徴的な表現を確認し、詩の表現と現状とを比較させながら各自の考えを深めさせる
9	Ｃアイエ		故郷	5	・本文が長いため、家庭で事前に読むことを課題とし、導入段階で大まかなあらすじを確認する ・現在と過去の対比表現に着目して内容を捉え、作品の構成や展開について批評することを中心の活動とする
10	Ｃウ Ｂウ		推敲して文章を整える	4	→次の小単元の導入に使用する
			新聞の社説を比較して読もう ［書く］論理の展開を工夫して書こう		・論理の展開を比較させることを中心に指導する
	伝イ（イ）		言葉2　慣用句・ことわざ・故事成語	1	・要点をワークシート等でおさえ、練習問題は家庭の課題として、後日確認する
	伝ウ（ア）		漢字2　漢字の造語力		
11	書写	様々な文字や筆記具		1	・筆記具の特徴とそれぞれの効果をおさえる
	Ｃア 伝ア（ア）	５　いにしえの心と語らう	音読を楽しもう　古今和歌集　仮名序	1	・音読を通して、「和歌」とは何かをおさえる
	Ｃアウ 伝ア（ア）		君待つと一万葉・古今・新古今	2	・和歌一首一首を詳細に理解させるのではなく、それぞれの歌集の特徴をおさえることに重点をおく
12	Ｂイエ Ｃアエ 伝ア（アイ）		夏草―「おくのほそ道」から ［書く］古典の言葉を引用し，メッセージを贈ろう	4	・各場所の概要を捉えさせながら紀行文の特徴をおさえ、作者のものの見方に触れさせる ・心に響いた表現を引用してメッセージを書くことを通して、引用の方法を指導する
			古典を心の中に	家庭	・単元全体の振り返りとして教材文を読み、古典に対しての自分の考えをまとめることを課題とする

13	書写	書写技能のまとめ		1	・行書の特徴を中心に確認する（毛筆と硬筆）
	Ｃアイ	６　論理を捉えて	作られた「物語」を超えて	2	・表現の工夫と文章の論理の展開の仕方に重点を置いて指導する
14	Ａアエ		練習　話し合いを効果的に進める	4	→次の小単元の導入に使用する
			話し合って提案をまとめよう 課題解決に向けて会議を開く		・それぞれの役割や合意形成について指導した後、教科書の課題例を参考にして身近なテーマを設定し、役割分担をして会議を開く
15	Ｂアエ		練習　観点を立てて分析する	4	→次の小単元の導入に使用する
			説得力のある文章を書こう　批評文を書く		・社会生活から関心のある事柄を選ばせる際、観点を立てて分析することに重点をおく
16	Ｃエ		初恋	1	・各自の感想を交流させる
	伝イ（既習）		文法への扉2「ない」の違いがわからない？ →文法②　文法のまとめ（P221-224）	1	・教科書「文法のまとめ」の練習問題を解きながら、今までの復習をする ・練習問題が必要な場合は、家庭での課題として、後日確認する
17	Ｃオ	読書に親しむ	エルサルバドルの少女　ヘスース	1	・筆者の撮影した写真や取材の仕方について、感じたことや考えたことをまとめさせる。
			読書コラム　読書記録をつける	家庭	・いろいろなジャンルの本があることを確認し、日頃の読書活動へとつなげる（朝読書等と関連させてもよい）
			読書案内　本の世界を広げよう		
18	Ｃ	７　未来へ向かって	誰かの代わりに	4	・３年間の指導事項の復習とする ・生徒の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項があれば、重点を置いて指導するとよい （よって指導事項の欄は領域のみを示した）
19			わたしを束ねないで	2	
	伝ウ（アイ）		漢字３　漢字のまとめ	1	
20	Ａ Ｂ		三年間の歩みを振り返ろう 学びについて語り合う　（※３）	3	
21	書写	卒業記念品を作る		2	・（※３）と関連させる（冊子にまとめる際の表紙等）とよい

【時間数の精選方法（例）】

○３領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・各領域ともに、複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、単元１「握手」では、指導事項イの「場面や登場人物の設定の仕方」を中心に指導し、単元４「故郷」では、指導事項エ「文章を読んで人間、社会について考え、自分の意見をもつ」ために、互いの意見を交流させる指導を行います。「書くこと」、「話すこと・聞くこと」も同様の考え方です。

○小単元をまとめて指導したり、家庭での課題にして補ったりする

・「漢字」「言葉」「文法の扉」については、まず、指導内容が既習事項なのか、新しい内容なのかを確かめます。新しい内容の場合、あわせて指導できる内容があるかを考えます。練習問題については、教科書巻末の問題やワーク等を家庭の課題とすることで、授業時間の削減が可能となります。なお、家庭での課題とする場合、生徒の達成状況を把握し、個への支援が必要なこともあります。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「読むこと」オ（※）　になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、３領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。また、「読書案内」「読書コラム」では、学校図書館を活用し、家庭での読書を促し、幅広い読書をさせることが可能となります。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導については、中学３年生では、１０単位時間程度行うものとあります。光村図書では、新聞を作成したり批評文を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば、新聞の見出しの書き方や原稿用紙の書き方を通して、配置・配列や漢字と仮名の調和、効果的な文字の書き方といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を５時間（５０％）で作成しています。）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や生徒の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。

※本資料は、中学校学習指導要領（平成２０年９月）によって作成しています。